

令和元年度 普及指導活動外部評価委員会（開催日：令和2年1月28日）

「評価委員からの意見」及び「次年度の活動について」

島根県農林水産部農業経営課

課題名	評価項目				次年度の普及活動の改善について
	課題設定と活動計画	普及指導活動の体制・方法	普及指導活動の成果	その他	
雲南地域における美味しまね上位認証移行支援 (雲南普及部)	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 今後、取引していく上で認証有無での差別化が必要であり、上位認証取得の活動支援は評価が高い。 ■ 現在の営農現場で直ぐにも必要な認証にも関わらず、広がりが遅々として進んでいない難しい普及事情に対し、チャレンジし確実に成果に繋がったこと。 ■ GAPへの対応は今後益々重要であり、「美味しまねゴールド」認証取得支援は草分けの役割も期待される。関係各所との連携が十分に取れていると評価できる。 ■ 難度の高い認証取得をスピード感あるスケジュール管理で現場を動かし、短期間に結果を出したこと。 ■ これまでの認証からレベルアップを図るため、上位認証を取得したいという団体に伴走し、関係機関との調整窓口のような機能をされたことは評価できる。取得を目指したいと考えていても、何から始めたらよいかかわからない農業者は多いと思うので、GAP推進の観点から、一緒に取り組む体制を構築していただきたい。 <p>【改善が必要な点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 「美味しまねゴールド」認証が県外の取引先、消費者に認知度がどれだけあるかが今後の課題。 	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ ロードマップ、最新情報、見本案など対象者にも分かりやすい。 ■ 確実に成果に結んだこと。 ■ 3名のチーム体制を早急に設けた点、現地確認等、支援対象法人を含む関係各所との情報共有が組織的に図られた点。 ■ 活動の流れに無駄がなく、生産組織の信頼を得た活動ができています。 ■ 進捗管理をしながら、逆算して何をすべきかを明らかにしながら取組を行われたことは評価できる。 <p>【改善が必要な点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 大学、民間企業等との連携もあると、さらに良い。 ■ 町、JAとの連携が説明不足だったのでは。 ■ 美味しまねは県の独自認証制度であり、今後は上位認証の取得を促していくというのであれば、県の組織として十分な体制を整えるべき。普及員一人一人のレベルアップはもちろん不可欠であるが、ケースバイケースで確認・調整を行わずとも、判断ができるような体制・人材育成が必要ではないか。 	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 認証導入により意識改革ができています。今までの作業の内容、やらなければいけないと思っていた事が明文化でき一つの流れができています。 ■ 明確な意識向上につながっており、「見える化」による後継者確保にも大いに期待。「小分け化」など、販促にも寄与。 ■ 生産者の視点も含め、良く分析、整理されている。 ■ 今回の法人の取得がモデルとなって、他の法人等への取得推進を図ることが可能になると考えられる。 <p>【改善が必要な点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 認証後のメリットを前面にだしていく必要もある。 ■ 今回達成の要因分析をシッカリと行うことで、他に活かせると思う。 ■ 認証取得が目標ではないので、今後のフォローアップが不可欠である。モデルが「あまり意味がなかった」というようになれば、誰も取得したいと思わなくなるため、認証取得の先にある目標は何かを明確にすべきではないか。 	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 前例のない事項に対する活動支援の経験を今後、継続してさらに発展することを期待する。 ■ 支援を通じ、認証制度に止まらない知識・スキルの向上が期待できる。 ■ 活動を通じてスキルアップしたことがうかがわれる。 ■ 上位認証の初めてのケースでご苦労されたと思うが、様々な勉強をされてレベルアップを図られたことは何より素晴らしいことだと考える。また、農業者と伴走されたことは、他の普及部でも同様に取組まれることを期待したい。 <p>【改善が必要な点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 農産出額アップの為に、認証取得の支援だけではなく、認証取得後の指導も必要。 ■ 今回の事例は、あくまで認証支援であるが、認証取得が目標ということにならないように、GAPの趣旨をきちんと理解し、丁寧に指導をしていく体制を整えてほしい。 <p>【自由意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 活動支援の内容は全体的にすばらしく、必要だと感じたが、今回のテーマに対しては適格な目 	<p>○ 認証取得の先にある目標は「経営の効率化、事故・損失の低減、信頼度の向上、取引条件のクリア」であり、これらの目標を達成することにより経営改善が図られる。</p> <p>○ 加えて、GAPに取り組むことにより経営や作業の見える化が図られ、構成員全員が経営の改善点を共有することができ、次の発展・経営向上に結びつけられる。</p> <p>○ 認証取得後も、雲南GAP推進協議会(県・市町・JA)が連携し、取得者の現状把握と経営改善指導を行う。</p> <p>○ 昨年度、各地域の関係機関で構成するGAP推進協議会を設置しており、普及に加えて、市町村やJA等と連携してG</p>

	<p>■ 認証取得がもたらす農家メリットの説明が、アバウト感が否めない。普及にはその部分の説得力、説得技術がカギになると考える。</p> <p>■ GAP に取り組むことと「農業産出額 100 億円アップを目指す」の関係が一般的に理解しづらいと思う。GAP 自体が産出額アップに即貢献しづらいと考えるので、どのようなメリットがあるのか、わかりやすく示される必要がある。</p> <p>【自由意見】</p> <p>■ 前例のない事項に対する活動支援は非常に評価が高く、過去の事例もない取組のなか計画がよくできている。</p> <p>■ 成果を出した認証取得単位がやや狭小かと。</p> <p>■ 支援対象法人の経営の特徴(長)や思い(理念)を知りたかった。</p> <p>■ 生産者とともに活動しようとする一体感がある。得られた成果や課題を共有し、次につなげる活動になっている。</p>	<p>【自由意見】</p> <p>■ 県農政部、農産園芸課との連携、状況把握、現地確認ができていたので適格な指導体制ができています。</p> <p>■ 苦勞した点が少なからずあったと思うが、そうした話を交えた方が聞く側により理解を得られ易いと考えます。</p> <p>■ 今般の支援経験を基に、支援マニュアルを広く作成されては(その他意見にも記載)</p> <p>■ この普及手法は県内でのモデルになる。</p>	<p>【自由意見】</p> <p>■ 18.7ha 規模の営農組合が選定されており一般生産者に対しては波及効果があると思う。認証後、組合員の意識向上につながり意識改革ができた点の評価は高い。</p> <p>■ タイムリーな情報提供で、美味しまねゴールドの情報が分かって良いと思った。</p> <p>■ 「美味しまねゴールド」取得者が今後も続き、地域の生産者全体の資質向上につながると良いと思う。</p> <p>■ 個々の経営体、事業の特徴により、成果の大小は大きく左右されるものと思う。この「見える化」も期待したい。</p> <p>■ 初ものづくしの成果が得られた活動は、他地域も含めて波及が期待できる。</p>	<p>標設定などがなく、大きいテーマに負けていた。</p> <p>■ GAP の取り組み先進県として、販売面でのより積極的な支援策を打ち出して欲しい。</p> <p>■ 美味しまね認証は、国際基準の GAP ではない。JGAP と同様の審査基準であることをもって、国際基準であるとはいえないし、そもそも JGAP 自体、国際水準 GAP とは言われていない。誤解を招くような表現は使わずに、どの GAP を目指したらよいか、しっかりと農業者と話し合っ指導できるような人材育成をしていただきたい。</p>	<p>AP の取組を支援する体制としている。次年度も生産者支援が円滑に進むようより連携を強化していく。</p> <p>○ GAP 取組・認証は、販売や経営面で幅広い効果が見込まれ、担い手育成の手法としても優れている。そのため、各地域に GAP 推進協議会を設置して支援体制を構築している。指導員の育成についても、県や JA 職員等の指導員研修受講や現場での OJT などにより指導力の向上を図る。</p> <p>○ 認証取得で止まるのでなく、その後の取組と点検、更なる見直しを繰り返すことでより効果が発揮されるため、認証後のフォローアップも含めた支援体制づくりを進める。</p>
--	---	---	---	---	---

課題名	評価項目				次年度の普及活動の改善について
	課題設定と活動計画	普及指導活動の体制・方法	普及指導活動の成果	その他	
就農・生活情報のパッケージ化による就農希望者の確保・育成 (浜田普及部)	【評価できる点】 ■ 担い手不足、新規就農者減少は日本全体の問題であり、評価の高い課題設定。 パッケージ化することにより、他の市町村にもリンクすることができるので普及効果が期待できる。 ■ 現在の島根農業が直面する最も大きな課題と言える担い手不足に対し、少しでも前に動かそうと取り組まれたこと。 ■ 就農希望者の農業・生活の確立は極めて重要な課題であり、基本情報の効率的な提供ツールとして期待できる。 ■ 就農・生活情報のパッケージ化に県内他市町に先がけて取り組んだこと。 ■ 今までこのような取組がなされてきていなかったのであれば、ようやくスタートした、という視点からであれば評価はできる。 【改善が必要な点】 ■ 農業産出額 100 億円アップのテーマに対して明確な目標設定が必要。 ■ 成果はパッケージを作成することではなく、あくまで担い手の確保にあるので、「○年度内に○人担い手確保。」とする目標設定があるべき。	【評価できる点】 ■ 地域の営農、農地、住宅、生活情報を集約、整理し就農希望者がイメージしやすいように、タブレット端末の利用、写真など活用し効果的。 ■ 役割分担が明確。 ■ 推奨品目や作型などの経営モデルを示していること。 ■ 役割分担を行ったこと。就農モデルについて、どの作物を取り上げるか明確にした上で、パッケージ化に取り組んだ。 【改善が必要な点】 ■ 大学、民間企業等との連携もあると、さらに良い。 ■ 普及組織内の役割分担の説明が足りないのでは。 ■ 農地の情報について「この URL から確認できる」という情報だけでは、見る側としては何ともしがたいのではないか。イメージを持ってもらう以上の付加情報を付け加えた発信をすべき。	【評価できる点】 ■ パッケージ作成と活用に対しては成果があり、各市町村のパッケージ作成の波及に繋がり評価できる。 ■ パッケージ、チラシ、ホームページでの情報公開など、認知度の向上が期待できる。 【改善が必要な点】 ■ パッケージ作成イベントで配布、説明だけでは就農希望者の確保、増加に繋がったか結果が分かりにくい。 ■ パッケージを作成されたことは一つの成果だが、真の成果であるはずの担い手確保が「0人」では、取り組みの意味を成さないのでは？ 悠長なスケジュール感でなく、待ったなしの最重要テーマとして突き進んで頂きたい。 ■ 成果の「見える化」がやや分かりづらかった。→ 浜田 ■ 就農や定着につながる研修のあり方などの具体化が必要。	【評価できる点】 ■ 活動内容、今後の普及活動には非常に情熱を感じた。今後、確保から育成を期待している。 ■ パッケージをきっかけに、営農モデルの策定などの活動に波及している点。 【改善が必要な点】 ■ 今までにない、画期的なアイデアと活動内容でないと、今の時代では就農希望者は響かない。 ■ 市町村単位で、すでに様々な情報提供が行われている中で、このテーマが事例発表に選ばれること自体に違和感がある。島根県として、このような取組を行ってこなかったのか。農林水産業に就いてもらう、ということは、その人が島根で暮らし、生活していくことに直結することである。 【自由意見】 ■ 農業産出額 100 億円アップのテーマに対しての目標設定、達成計画などをもう少し明確にし、未来が見える内容と現実的な内容を期待する。 ■ 発表にあった「今後の普及活	○ 目標設定(認定新規就農者数)については、本年度は浜田市・江津市ともに3名とし、取り組んできたところである。 今後は、両市の基幹的農業従事者数、これまでの新規就農者数の動向を鑑み、適切な目標設定のもと、新規就農者の確保に取り組んでいきたい。 ○ 官民一体となった取り組みについては、まずはどの分野・事柄において連携・協力が出来るかを、関係機関で模索していきたい。 ○ 普及組織内の役割分担については、就農希望者の意見を参酌した上で、技術面では技術普及部、学習面では農林大学校等の協力を得ながら、研修段階において連携を密にし、就農希望者の充実した研修実施に取り組んでいきたい。 ○ 本年度の新規就農者数の見込みは「ゼロ」

	<p>■チラシの作成や就農相談を達成目標にしていることに違和感がある。</p> <p>■「農業産出額 100 億円アップを目指す」のであれば、この取組がどの程度貢献するものかを示すべきであると考え。そもそも今までこのような取組がなされていなかった、という課題設定になっているようにみえるのが心配。</p> <p>【自由意見】</p> <p>■各市町村で色々と就農相談会等行われているが、県全体で本格的に取組む必要がある。意欲的な市町村とそうでないところもあるので底上げする必要がある。</p> <p>■〇人以上は担い手を確保するためのパッケージ活用方法まで、普及活動として取り組んで頂きたい。</p> <p>■パッケージ化によって自営就農者がどれだけ定着したかが成果ではないか。</p> <p>■本年度の普及活動が「チラシの作成に取り組む」となっているが、チラシを作成することによって何を達成するのかという目標が不明である。</p>	<p>■紹介された各パッケージ内容が、地域によって作成フレームの違いが目新しく、非常に参考となった。</p> <p>■連携や役割分担はできているが、成果に結びついているかは疑問。</p> <p>■新規就農者を確保しようと思えば、当たり前のことのように感じる。</p>	<p>のデータが少ないため分かりにくい。</p> <p>■就農希望者の相談に関するニーズは満たされたのか？ 今後も、就農・定住につながる、魅力ある情報発信を期待。</p> <p>■今後は、SNS への拡張を図ってはいかがか。</p> <p>点(浜田)から線～面のオール島根への拡大を図ることが重要と考える。</p> <p>■就農希望者を誘導するアイテムの作成や活用は手段であって成果とはいえないのでは。</p> <p>■チラシを作成して、その結果どうなったのかわからない。そもそもの目標設定が何なのか不明であるので、成果もわからない。</p>	<p>動に向けて」を実践し、地域農業の発展につなげてほしい。</p> <p>■関係者が一丸となって取り組み、情報を出していかなければ、UI ターン希望者には届かないので、情報を一元化して発信してほしいし、より細やかな対応の体制を構築してほしい。</p>	<p>であることについて反省し、関係機関と今後の対応について検討しているところである。</p> <p>○就農パッケージ・PR チラシは相談時の一アイテムとして活用しながら、両市とともに就農相談会等で真摯な対応で臨んでいきたい。</p> <p>○今後は「研修から就農」に向けた整備に喫緊に取り組んでいく必要がある。農林大学校と連携した研修カリキュラムや受入農家の指導力向上に向けた研修等を、県と連携しながら進めていきたい。</p>
--	---	---	---	--	--

課題名	評価項目				次年度の普及活動の改善について
	課題設定と活動計画	普及指導活動の体制・方法	普及指導活動の成果	その他	
圃場整備を契機とした白ねぎ産地の育成 (大田普及部)	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 水稻との作業重複が少なく水田園芸は非常に興味深い。米依存から高収益作物の水田園芸の推進は必要。 ■ 関係機関はもとより、支援対象との十分な連携が図られている。詳細な技術・経営データの収集が行われている。産地育成ステップが明確である。 ■ 県の振興方針に対応した注目度の高い課題で適切。 ■ 産地育成イメージに沿った説明がなされており、わかりやすい。 <p>【改善が必要な点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 普及内容の「経営分析」をより具体的にする必要はある。→大田 ■ 何故、白ネギを薦めるのか？が判らない。 ■ 「農業産出額 100 億円アップを目指す」のであれば、この取組がどの程度貢献するものかを示すべきであると考え。 <p>【自由意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 白ネギの需要、販売先、経費など具体的な計画が必要。 ■ 産地育成の途中経過の発表ではあったが、全体計画は理解できる。 ■ 所得向上を目指すのであれば、技術指導だけでなく、販路確保につ 	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 近隣 JA との連携販売など、入口から出口まで計画的な内容で評価できる。 ■ 的確な改善指導に取り組まれている。 ■ 様々なステークホルダーとの連携が図られている。 ■ 経営分析を適切に行っている。 ■ 生産組織と密着し、販売先も含めた多様な関係機関との連携もしっかり取れている。 ■ 関係者で組織をつくり、横展開が図られている。 <p>【改善が必要な点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 経営分析、所得向上対策の部分がもう少し必要。 ■ 地元JAとの連携が発表内ではあまり触れられてなかったように思うが、おそらく連携されて(生産・販売)苦労話もあったと思うので、その辺りも伝えられれば他方にも活かせる取組みに思う。 ■ 経営分析の結果をみると、本当に所得向上につながるのか心配である。結果を踏まえて、よりきめ細やかな対応をご検討いただきたい。 	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 収支報告など具体的な内容で分析されている。 ■ 詰めが甘い粗削り感の否めない発表内容だったが、農業現場が求める一つの課題に対し、真摯に向き合い取り組まれていることこそが、とても大切。 ■ 技術・経営面での課題抽出ができています。数値で示すことができています。 ■ 段階を踏んだ育成手法や課題毎の対策が、十分整理されている。 ■ 取組を始めてから期間が浅く、現時点では何ともいいがたいが、一対一対応はできていると思う。 <p>【改善が必要な点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 稲作と水田園芸との単収、人件費等の比較があれば、分かりやすく今後、波及効果も期待できる。今後、実例を活かし分かりやすく説明し、波及していく必要がある。 ■ 現状を踏まえて、生産者のモチベーションをいかに保つのか、対応が必要ではないか。 	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 現在、白ネギの取り組みが広がりある中、さらに生産者の所得向上のための支援は評価できる。 ■ 一つの産地興しは、地域への理解の醸成から始まり、相当の熱量を持った取り組みがあったと推察し、課題は山積みなもの今日の段階までに深く敬意を表したい。 ■ 技術、経営、産地化など、多岐にわたるスキルアップが期待できる。 ■ 対象は生産組織であり、普及もチームとしての活動になっている。 ■ 現時点では赤字であるということを確認に示したうえで、これからの対応について述べられていたことは評価できる。 <p>【改善が必要な点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 今後、栽培面積に対して利益がでる、ガイドライン的なものがあるとうい。 ■ まだ始まったばかりの取組であるので、たとえ担当者が変わっても、継続した取組が行われるような体制づくりを行ってほしい。 	<p>○モデルとなる経営規模の経営体について、経営データや労務管理の状況把握を深め、白ねぎを選定し、水田園芸に取り組むことの有利性や意義の周知と理解を推進し、更なる産地の拡大につなげる。</p> <p>○特に、集落営農組織では、白ねぎが水稻との作業ピークの重複が少なく、冬場の所得確保も期待できる品目であることを説明してきた。また、水稻との組み合わせで取り組む水田園芸が集落活動を持続するために必須となることも合わせて推進する。</p> <p>○1 からの産地づくりのため、現状では生産拡大に合わせた販売先が定まっていな。生産の安定化に加えて、JAの広域連携販売の取組や加工仕向けなど、所得につながる契約的取引を強化する。</p>

	<p>いても並行して行うべきである。島根県として、白ねぎの産地となることを目指すのであれば、特に販路に関しては、オール島根でのPR等の対応が必要不可欠である。</p>	<p>【自由意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■栽培技術員の取得など活動体制はよくできている。 ■目標年次までに実施すべき課題や数値目標が明確。 	<p>【自由意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■今後、地域への波及効果継続していくためには、安定的な利益をあげることが必要。 ■前年度の課題が、今年度は改善されていて良いと思う。 ■話が聴き易く理解し易かったので、普及員適正としては素晴らしいものを持たれていると感じた。 ■おいしい白ねぎの生産と販路確保により生産者の所得がUPして、継続してほしいと思う。 ■マーケットイン、ニッチ市場への対応も重要と考える。 ■普及対象組織も明確になっており、成果が出れば広がり期待できる。 	<p>【自由意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■白ネギの収益、製造原価、人件費など数字での水稲との比較が必要。生産量、販売金額をあげるだけでは、今後に繋がらない。 ■モデル経営、支援プロセスの情報を明文化してはどうか。 ■計画数値の達成に向け、引き続き力を集中し、拠点産地化をして欲しい。 ■今回の事例は新しい案件だったが、今まで取り組んできている品目(キャベツやアスパラガス等)が他にもあるはずだと思う。それらが今どのような状況であるかの振り返りも行って、新たな品目への取組に反映するようなことを行ってほしい。 	<p>○産地の拡大に向けては、関係機関と一体となった推進体制をこれまで以上に強固なものとし、生産振興対策の立案や今後発生する課題の解決に、きめ細かく対応していく。</p> <p>○生産者のモチベーションを保つため、横の連携(石見銀山白ねぎの会の活動)を強化し、令和3年には、3,000万円以上の販売額となる拠点産地を目指す。</p>
--	---	---	---	---	--

課題名	評価項目				次年度の普及活動の改善について
	課題設定と活動計画	普及指導活動の体制・方法	普及指導活動の成果	その他	
水田園芸推進のための排水対策技術の確立と普及 (技術普及部)	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■水田園芸に必須の排水対策技術は必要であり評価が高い。 ■排水改善は水田園芸のボトルネックであり、圃場に合った対策技術を、分かりやすい形(早見表)で提案できている。 ■水田園芸に不可欠の基本技術を生産者目線に立って、いち早く取り組んだこと。 ■水田園芸を進めるために必要不可欠な技術についての検証となっている。 <p>【改善が必要な点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■目標に「低コスト」も掲げられていたが、発表内ではそれが曖昧。経費と時間を掛ければ対策はできるので、如何に低コスト、しかも短期に行える技術か?!が重要。 ■収量が低いことについて、排水不良以外の要因の分析も必要ではないか。 <p>【自由意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■3地域4カ所で実証されており、映像と内容でわかりやすい。 ■最終目標として販売高に結ぶことが必要と考える。 ■生産者が実行できる指標になっており、活用の広がりが期待できる。 	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■排水対策早見表など非常にわかりやすく、実践してみようと感じた。 ■独りよがりではなく、会合を重ねられ多くを巻き込んで整理されたこと。 ■農技センター内、普及部、JA、メーカーはもとより、他県(富山県)との連携(情報入手)も図られている。 ■年次、地域性、圃場条件などを踏まえた上で、全県一区の活動が効果を高めた。 ■排水対策早見表を作成し、その改良に取り組まれた点。 <p>【改善が必要な点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■「排水対策早見表」をスマホ等で手軽に利用できればさらによい。 ■土地改良事業が各所で行われているので、農地整備の担当との連携がより密に図られるとよい。 <p>【自由意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■研修会や排水対策施工機械実演会など組織的な体制でよくできている。 ■研究機関に属する普及組織の強みを生かした連携活動といえる。 	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■説明と映像でわかりやすい分析結果。 ■粗削りだが現場に必要な施策を開発し、社会にシッカリと示せたこと。 ■早見表のみならず、映像を含む詳細データの整備につながっている。 ■早見表を用いた診断方法を生産現場で実証し、必要な対策を導き出したことで信頼度を高めた。 ■3つの方法について、それぞれの効果が見える化できた点。 <p>【改善が必要な点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■逆に、もっと失敗例などあれば参考になった。 ■データを蓄積し、より細かい対応ができるようにブラッシュアップしてほしい。 <p>【自由意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■作業機の費用の問題と次期水田作へ戻すことが難しい等の問題点はありましたが、水田園芸推進のためには必要であり、波及効果が期待される。 	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■今後、生産者が効率よく水田園芸に移行できるツールの第一歩として評価できる。 ■派手なことではないにせよ、普及の仕事は着実に農業現場を前進させることにあらず、こうした着実な積み上げと成果を出す手法が、普及現場に必要なことだと思う。 ■マニュアル化、試験研究、ネットワーク構築など、多岐にわたる資質の向上が期待できる。 ■動画を使った発表が斬新。質問に対する適確な応答ぶりが活動への信頼度を高めた。 ■水田園芸を普及させるためという課題に対して、解決に向けたわかりやすい設定となっている。 <p>【改善が必要な点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■水田園芸も必要であるが、稲作の維持はさらに重要であり、今後、排水対策以外にも稲作に対するスマート農業の推進技術を進めてほしい。 ■今後の普及に向けての部分で書かれていることは必要なことだが、せつかくの技術をより現場に知ってもらい、使っ 	<ul style="list-style-type: none"> ○今回とりまとめた技術は、短時間で施工可能で効果が期待できる視点からも検討したものである。 ○コスト低減に向けて共同利用の仕組み作りを検討しているところである。次年度以降は関係機関とも連携し、地域にあった仕組みを創造していきたい。 ○収量低下要因は多様であるので、研究部門とも連携し現場で緊急性の高い課題から解決に取り組んでいるところである。 ○早見表の利用と排水対策の実践事例は次年度調査研究で集約する計画である。 ○農地整備課とは、県水田園芸PJのメンバーとして早見表の作成段階から連携をとっており、排水対策の実践においても緊密に連携していきたい。 ○普及指導員だけでなく、JA営農指導員を対象にした研修会あ

			<ul style="list-style-type: none"> ■ 早見表と一緒に診断を行うことで、分かりやすく指導できていると思う。 ■ 課題解決の新アイテムを開発され、関係者の多くが感嘆していると思う。 ■ 県だからこそできる活動なのだろうと思う。排水対策技術を確立して、生産者に普及してほしい。 ■ 早見表は、県内のみならず、県外にも普及できるのではないか。(普及の可能性と限度は?) ■ 診断を重ねることで早見表の精度や対策技術は向上する。 ■ 導入したいと考える地域は多くあると思うので、機械の導入等の検討を始め、現場と伴走して普及に努めてほしい。 	<p>てもらえる体制をつくってほしい。</p> <p>【自由意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 今後は水田園芸の農地集積と集約が課題。 ■ 次は開発アイテムを活かし、如何に農業現場での成果に結べるか!?!実際の普及(指導)の取り組みに期待。 ■ 本事例をもとに、「支援プロセス」のマニュアル(早見表や手順書のようなもの)は作成できないだろうか(例:多主体間の連携の要点など)。 ■ 基盤整備機関との連携もあり、今後に予定しているマニュアル化に期待する。 ■ どのような研究が行われて、どのような技術があるのか、その情報を幅広く発信してほしい。現場で活用されてこそだと思う。普及とNNとの連携も図りながら、技術の普及を行ってほしい。 	<p>るいは、現地ほ場で生産者も対象に早見表の活用研修を随時開催している。</p>
--	--	--	--	--	---